

## 中生代白亜紀の世界地図と気候

ちゅうせいだいはくあき

恐竜やモササウルスが繁栄していた白亜紀の地球は、どんな姿だったのでしょうか。地球の表面は、いくつものプレートに分かれており、1年間で数センチメートルという速さで常に動いています。大陸が何千万年、何億年という単位で毎年移動し続けてきたと考ええると、地球の姿も大きく変化してきたことが想像できるでしょう。

### ●白亜紀の世界地図

およそ1億年前の白亜紀の地図を、図の上に示しました。今の地球とは大きく異なり、アフリカ大陸と南アメリカ大陸がくっついていて、大西洋はまだありません。オーストラリア大陸も、南極大陸とつながっています。また、ユーラシア大陸とアフリカ大陸、インドの間にはテチス海という海がありました。

この当時、日本列島は形になっておらず、後に列島をつくる断片的な地形が各地に散らばっている状態でした。

### ●温暖だった白亜紀の地球

このテチス海から、北大西洋、太平洋には、赤道付近で海がつながっており「環赤道海流」という暖流が地球

を一周していました（赤矢印）。この暖流によって地球全体が温められていたため、当時は気温が高い時代でした。一方で、南極とオーストラリアはつながっており、南極付近の冷たい水が温められたことも、地球が温暖化した一つの要因でした。

### ●大陸移動による寒冷化

しんせいだい

およそ6千万年前の新生代に入ると、インドやアフリカ大陸がユーラシア大陸に衝突し、テチス海は消滅しました（図の下）。さらに、パナマ地峡ちきょうによって南北のアメリカ大陸がつながり「環赤道海流」は途切れしてしまいます。さらに南極の周りには「南極環流」と呼ばれる寒流が発達しました（青矢印）。やがて南極は氷床に覆われ、現代のような寒冷な地球の気候が始まりました。

